

名松線廃止反対シリーズ 6

JR東海労は名松線の全線存続のため 名松線、美杉地区、伊勢奥津駅、家城駅へ

2010年1月13日、JR東海労本部と名古屋地本はJR東海が台風18号の被害から輸送体制の変更を打ち出した名松線家城・伊勢奥津間の検証と津市美杉地区へ行ってきました。

線路は台風の被害をそのままにし、レールは痛々しく赤錆、踏切には柵をして、すでに廃線の模様でした。しかし、町には廃止反対の看板が立ち、伊勢奥津駅にある伝言ノートには廃止反対の思いが綴ってありました。

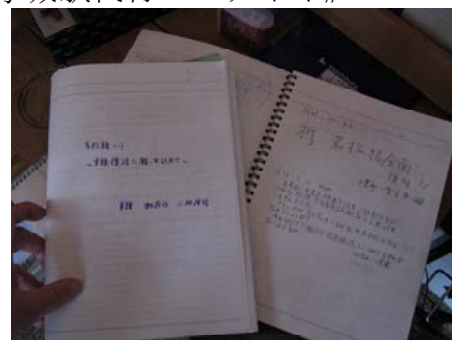
美杉地区では「名松線の全線復旧を求める会」の結城実会長と懇談し様々な意見を伺いました。「JR東海会社は安全確保の話しのみで、私たちの話を聞こうとしない」「突然の話で困惑している」「廃止によって美杉地区が削られてしまう」「今後も行政に働きかけていく」など、ぽつりぽつりと思い伝えてくれました。私たちもJRで働く者として、地域の思いを受け止め、一方的な提案には疑義を申し入れ、さらに廃止反対の運動を進めていきます。



《家城駅代行バスダイヤ》



《立ち入り禁止の伊勢奥津駅－奥には給水塔が》



《伊勢奥津駅にあったノート》